

# 山形盆地の森林・生活環境に対する 住民意識

佐々木 博

## I はじめ

森林環境と生活環境に対する住民の感じ方を、アンケート調査によって捕まえようとした。大都市内の緑地不足のところ、緑地に対する意識調査は日本ではしばしば行なわれてきた<sup>1)</sup>。最近では四手井<sup>2)</sup> (1981)らによって旭川市・鶴岡市・榎引町・伊那市・宮崎市・東京都、西ドイツFreiburg i.Br.・Neuenburg・Hannover・Göttingen, フランスNancyについて森林環境に対する住民意識の国際比較が発表されている。生活環境については、筑波研究学園都市について、佐々木<sup>3)</sup> (1977・1978・1979・1982)・上笹<sup>4)</sup> (1980)らの一連の研究がある。アンケートによる意識調査は、統計書などでは捕えられない感覚的なものを、ある程度数量化して捕えることによって、地域の性格の一端を知る方法としては有効である。

## II 山形盆地の森林環境

### II-1 森林の自然

山形盆地は南北に細長く、面積約400km<sup>2</sup>、地溝盆地とも断層角盆地ともいわれている。東縁は山形断層崖によって蔵王火山(最高峰 1,841m)と、西縁も中山・山辺町を南北に走る断層線によって白鷹火山〔通称西部丘陵(最高峰 994m)〕と境されている。山形盆地の最低点は楯岡南西、白水川が最上川に合流する地点の80mから、最高点は1,841の蔵王岳まで、比高約1,760mにもわたっている。盆地底でも複合扇状地であるため、最高地点である県庁付近の220mまで約140mの比高

がある。

年降水量は1,250mm、年平均気温11.1℃と山形盆地は山形県内では最も降水量が少なく、最深積雪深も100cm以下の盆地気候を示している。とくに8月の平均気温は26.0℃と高温となり、ブドウ・リンゴ・ナシなどの果樹栽培に利している。2月の平均気温は-1.0℃で県内では最も高く、住み易いところである。日照時間は年間1,792時間と、表日本側の仙台(1,977時間)と比べて185時間も少ないが、5月～8月の夏季4ヵ月間は仙台よりも日照時間が長く、果樹・水稻の栽培に有利な気候条件を呈している。しかし、最長日照月5月(217時間)と最短日照月12月(87時間)の差が大きいのが特徴である。

### II-2 森林の所有形態

アンケート用紙を配布した山形市・中山町の森林の所有形態を村山地域森林計画書(自昭和50年4月1日～至昭和60年3月31日)によって検討する。山形市土地総面積38,158haのうち、森林率は55.8%、中山町のそれは、3,173haのうち33.0%である。山形市の森林21,283haのうち、国有林率は40.2%、民有林率は59.8%、中山町の森林1,046%のすべてが民有林で、国有林は存在しない。山形市に国有林が多いのは東北地方の背梁山脈をなす奥羽山脈が、国有地になっているからである。

民有林の内訳をみると、個人所有の私有林の占める割合が山形市で70.4%、中山町で93.6%と大きい。公有林のうち県有林は、山形市の場合には東部蔵王連峰の一部にある1910年設定の東沢模範

林(394ha)や県行造林地(34ha)など地上権設定の分収林などがある。

## II-3 森林レクリエーション地域

### a) 自然公園

山形盆地に関係する自然公園には次の4つがある。

〔磐梯朝日国立公園〕山形県分72,334ha,1950年指定,月山・羽黒山・湯殿山・朝日岳・大鳥池の観光地点,利用形態としては信仰・登山・春夏スキー。

〔蔵王国定公園〕山形県分19,332ha,1963年指定,熊野岳・地蔵山・馬ノ背・観松平・いろは沼・ドッコ沼・奥山寺の観光地点,利用形態としては登山・スキー・湯治・キャンプ。

〔御所山県立公園〕13,515ha,1951年指定,銀山温泉・大平牧場・御所山・層雲峡の観光地点,利用形態としては登山・湯治。

〔天童高原県立公園〕1,883ha,1967年指定,野田平・ジャガラモガラ・高滝不動・岩松観音の観光地点,利用形態としては信仰・キャンプ・ハイキング・スキー。

### b) 自然休養林

〔千歳・経塚自然休養林〕442ha,1960年指定,県庁南側千歳山・上山市経塚山の老松が観光地点,利用形態としてはハイキング・信仰。なお自然休養林とは林野庁が森林のレクリエーション利用を図るために,国有林の中から選定した4種類のものの一つであり,全国に92ヵ所ある。自然休養林以外のものとしては,自然観察教育林・野外スポーツ林・風景林がある。

山形盆地に関係するものとしては,御所山地区に,自然観察教育林の南沢アオサギ,野外スポーツ林の大高根野営場・柳沢野営場,風景林の御所山・翁山,朝日・月山地区に,野外スポーツ林の月山スキー場・志津スキー場・志津野営場,風景林の神通峡大頭森・朝日=大鳥湖,蔵王地区に自然観察教育林の仙人沢野鳥の森,野外スポーツ林の面白山スキー場・蔵王スキー場・蔵王坊平スキー場・蔵王坊平野営場・奥山寺野営場・苔沼・

曲沼サイクリングロード,風景林の奥山寺・蔵王がある。

### c) 生活環境保全林

山形県内に8ヵ所あるうち,山形盆地にあるものは次の二つである。

〔東沢〕1974~76年施行,村山市大字楯岡字楯山6345-1,面積58.76ha,事業費1.1億円,村山市有林で東沢いこいの森〔東沢バラ公園〕となっている。

〔大沼〕1977~79年施行,山辺町大字細谷字大沼,面積53ha,事業費1.9億円,県有林・山形市有林・山辺町有林が共存し,県民の森の一部をなしている。

### d) 県民の森

「県政100年を記念して,美しい郷土の自然を守り,すぐれた森林をつくるとともに,県民が美しい自然の中で,明日への希望とやすらぎを求め,緑を通じて心のふれあいをひろめる場として造成されたものである。」

山形市・東村山郡山辺町・西置賜郡白鷹町・南陽市にまたがり,面積895ha,標高は450~1,000mにわたっている。1981年に開設され,山形県が管理している。白鷹山(994m)火山群の,西黒森山(847m),東黒森山(766m),東南部に大沼・荒沼など10数個の池沼が散在して風光明媚,スギ・コナラ・ブナ・ミズナラなどの森林に恵まれている。東黒森山山腹にアカマツ自然群落,琵琶沼のホロムイソウなど本州でも珍しい北方植物が自生している。

自然の美しさと並んで,森林学習展示館・フィールドアスレチック・中央広場・家族広場・学習林・300台収容の駐車場などの施設の素晴らしさがあげられる。とくに森林学習展示館は県林政課が力を入れて作ったもので,自然保護・林業・博物館学博物館としての教育効果は大きく,山形市の近隣行楽地(Naherholungsgebiet)としては最適の施設といえる。ただ山形市側からの接近道路が狭くて腕曲し,渋滞するので改善が望まれる。林政課調べで県民の森利用状況は,展示館(1981年7月供用開始)・広場等・フィールドアスレチック・

野営場の利用者合計で、1981年2.7万、82年4.8万、83年4.5万、84年6.1万、85年14万人であった。来訪圏は山形市・村山地区90%、置賜地区5.5%、庄内・最上地区4%、県外0.5%と、文字通り県民の森として利用されている。

利用者の季節配分を1985年についてみると、ゴールデンウィークのある5月が4.5万人で年間の32.4%、次に夏休み8月16.6%、紅葉の10月14.0%、9月10.5%と続き、森林学習展示館の開館している5月1日～11月30日以外は閉館してしまい、統計もない。

#### e) 野鳥の森

県生活環境部自然保護課が1974年に、蔵王山西斜面の海拔1000mの蔵王坊平の仙人沢を中心とする124haを、「野鳥の森」に指定し、給餌台・巣箱を設置、実のなる木の植樹も行なって野鳥の保護繁殖をはかっている。ここは蔵王国定公園内にあり、国設蔵王山鳥獣保護区にもなっている。観察小屋・東屋・観察路を設けて、訪ずれる人々に野鳥と接する機会を提供し、野獣保護思想の高揚と普及啓もうに役立てようとしている。ここで見られる主要な鳥獣はコガラ・ヒガラ・アオゲラ・カモシカなどである。

### III 森林・生活環境に対する住民意識

山形盆地内で2つの中学校にお願いして、アンケート用紙を1986年1月下旬に1・2年生に配布した。生徒の世帯主に記入してもらい、数日後に回収してもらった。山形市街地居住者が多いと思われる山形大学教育学部附属中学校（山形市松波2丁目7-3）と、山形駅北北西12kmの農村部にある東村山郡中山町立中山中学校（中山町長崎4880）を調査校としてお願いした。

学校要覧によると、附属中学校は1学年4学級、計12学級、生徒総数521人のうち、時節がら受験をひかえている3年生は除外して、1・2年生8学級349名に、中山中学校は14学級、生徒総数383名のうち、1・2年生9学級、210名に調査票を配布していただいた。学校要覧による生徒数と実数は移動により若干くい違いがあり、中山中学校では

アンケート用紙の未提出者1名という、ほとんど100%近い回収率であった。附属中学校では、未提出数を確認しなかったが、学校要覧数が正しいとすれば $\frac{334}{349}=95.7\%$ の高い回収率であった。

アンケート調査項目の作成に当り、実施中学校から余り多くならないように、との意向が表明されていたので、前記四手井の研究や、筆者の筑波研究学園都市との比較ができるように、山形盆地でも適用できる項目を選別して、20問をアンケート用紙にまとめた。

20問のうち11問は森林環境に関するもの、9問は教育・生活環境に関するものである。それらの集計結果を他の研究と比較検討しながら分析する。

#### III-1 森林環境に対する住民意識

##### a) 緑の総量

「あなたの住んでいるあたりの樹木や草花の緑の量にどのようにお考えですか」

山形盆地は全体としては8割の人が満足している。農村部の中山中の方に非常に満足している人が2割を越えている。参考値として1977年11月実施の土浦市内13小学校の小学生の母親に対する「緑地意識についてのアンケート<sup>6)</sup>」から2校を選んで比べてみた(表1)。亀城公園(土浦城跡)南に隣接する都心の土浦小では約5割が不満をもっているのに対して、常磐高速自動車道土浦北インターチェンジ東にある都和小は、都心から4km離れていて相対的に緑が多いため、約8割弱の人が満足している。都心部や市街地居住者の緑の満足度は低く、郊外の農村部のそれは一般に高いようである。

##### b) 美しいと感じる景色

「山形盆地で美しいと感じる景色はどこですか。具体名を3ヵ所書いて下さい。」の問に対して、上位5位を列記すると、附属中では1. 蔵王山(169名)、2. 山寺(114)、3. 月山(102)、4. 千歳山(90)、5. 馬見ヶ崎川(69)、中山中では1. 蔵王山(118)、2. 月山(122)、3. 最上川(100)、4. 山寺(50)、5. 西蔵山(12)であった。両中学校を合計したベストテンは、①蔵王山(287)、②月山

(214), ③山寺(164), ④最上川(149), ⑤千歳山(95) ⑥馬見ヶ崎川(71), ⑦西蔵王(57), ⑧県民の森(41), ⑨霞城公園(35), ⑩夜景(18)であった。千歳山は県庁南側にある標高471mの孤立した小山で、付属中学と道路を隔てて対面している関係からか、付中の90票に対して、中山中はわずか5票しか入っていない。蔵王山・月山・山寺などは両中ともに最高点を与えているが、馬見ヶ崎川・千歳山はそこに近い付中では人気が高いが、中山中ではほとんど挙げていない。逆に最上川は中山中での人気が付中よりも2倍も高いのは、最上川が中山町北部を西から東へ流れている親和性によるためと思われる。県民の森は中山中(9)よりは付中で(32)3倍も人気が高く、山形市の近郊レクリエーション地として、それなりに人気が高いことを物語っている。

c) 行ってみたい行楽地

「あなたは行楽に行く場合に、次のどこに一番行きたいと思いますか。一つだけ選んで下さい。」付中は「見晴らしのよい山」・「温泉」・「静かな湖」・「古い寺院」中山中は「温泉」・「見晴らしのよい山」・「高原の牧場」・「静かな湖」の順で、両者の大きな相違は付中の「古い寺院」が中山中の2倍強であり、他方中山中は温泉が付中よりも7.7%多いことである。

四手井らの調査(旭川・鶴岡・東京・宮崎・Freiburg・Hannover・Nancy)と比較対照してみた。ただ四手井らの項目は日本人に最も好まれるものの一つである温泉が入っていないので、他の項目の比率が相対的に高く出ている(表2)。温泉をアンケートの選択肢に入れなかったのは、日本を対象にした調査としては不可解である。また

表1 緑の総量

	総数	非常に満足	まあまあ満足	どちらとも言えない	やや不満	非常に不満	不明
付 属 中	320	17.2%	62.8	10.0	10.0	0	0
中 山 中	209	21.5	56.5	12.0	8.1	1.9	0
土 浦 小	68	4.4	26.5	19.1	35.3	11.8	2.9
都 和 小	34	5.9	70.6	8.8	11.8	2.9	0

(土浦小・都和小は「土浦市・緑のマスタープラン策定調査報告書(1980)による」)

表2 行ってみたい行楽地

	総数	深い森	古い寺院	広い浜砂	高原の牧場	見晴のよい山	けわしい岩山	静かな湖	都市	温泉	その他
付 属 中	304	5.6%	14.5	6.9	11.8	24.7	0.3	15.1	2.0	17.8	1.3
中 山 中	200	4.5	7.0	6.5	15.5	25.0	0	13.0	3.0	25.5	0
旭 川	421	5.2	20.2	4.8	13.1	24.0	0.5	27.4	1.9		2.9
鶴 岡	404	3.0	24.3	2.2	18.8	25.3	0.2	20.0	2.7		3.5
東 京	499	2.8	17.8	9.6	19.2	22.6	0.6	21.8	1.4		4.2
宮 崎	440	7.7	19.5	2.5	23.6	26.3	0.2	16.4	1.8		2.0
Freiburg	186	55.0	1.1	3.2	8.6	16.6	4.3	8.6	0.5		2.1
Hannover	230	62.3	1.5	2.7	9.7	10.4	5.8	5.0	1.5		1.1
Nancy	317	56.6	0.4	6.1	7.4	10.9	5.6	9.6	0.8		2.6

(下方7都市は四手井(1981)による)

「深い森」というのも、中央ヨーロッパ的選択肢であって、日本では意表をつく質問であって、ドイツ、フランスでは55%以上であるのに、日本では1割に満たない数値でしかない。逆に「見晴らしのよい山」は日本では23~26%と、約4割を占め、森とは山の山麓から山頂への斜面のことで、「見晴らしのよい山」への途中が山林〔森〕であって、行楽の目的地とはなりにくいことを物語っている。日本にはドイツ・フランスのような散策する平地の「森」という概念がない。平林寺・三富新田の雑木林などが、わずかに西欧の森に近いものである。「静かな湖」と「古い寺院」が日本で支持率が高いのは、演歌にも「静かな湖畔の宿」などの情景がよく歌われていることから、日本人の憧れのイメージとなっているようである。日本三景で代表される「白砂青松」の砂浜海岸は7%弱と人気は今一つ不ず、東京とNancyで「広い砂浜」がやや高い支持率があるのは、海水浴地としての太平洋岸と地中海沿岸への憧れと解釈できる。年齢・性別では、日本では「高原の牧場」が女性と若年層に、「見晴らしのよい山」はむしろ男性と高年齢層に、「古い寺院」は高齢層に好まれるという。

d) 古大木に対する気持ち

「あなたは、大きな古い木を見たときに、何か神神しい気持ちをいただきますか」。付属中の方が6%ほど古大木に対する畏敬の念が強い。他都市および外国と比べても、大差はなく、東京とNancyのみ古大木への畏敬の念が低い。この差が何に由

表3 古大木に対する畏敬の念

	総数	いだく	いだかない	無回答
付属中	338	82.8%	17.2	
中山中	203	76.4	23.6	
旭川		85.5	13.3	1.2
鶴岡		88.9	10.1	1.0
東京		57.1	36.5	6.4
宮崎		89.5	10.0	0.5
Freiburg		90.3	8.6	1.1
Hannover		91.4	7.8	0.8
Nancy		69.6	30.4	0.0

(下方7都市は四手井(1981)による)

来するかは、不明である。

e) 好まれる樹種

「あなたにとって、最も親しみのある木の名前を、五つあげて下さい。」付中・中山中両方合計した数で、第1位は松、次いで桜・杉・いちょう・かえで、が上位5位の好まれる樹種である。6位以下はぐっと数は減ってけやき・梅・ぶな・ななかまどと続いていて、「松竹梅」は日本人が好む樹種である<sup>5)</sup>、とするのは必ずしも当たらない。他都市との比較では、全国的に好まれる樹種は、松・杉・桜・カエデ〔モミジ〕である。若干地域性の反映としては、クスノキが宮崎市で5位以内に入っており、エゾマツが旭川市で10位以内に入っているのが他都市と異なるところである。針葉樹を主とする森林樹木は男性に親まれ、カエデ・サクラなどの観賞用樹種とカンバ(シラカンバ)はどちらかというとな性に親しまれている。

西ドイツでは都市は違っても好まれる樹種の順位は同じで、1. Tanne(モミ)、2. Buche(ブナ)、3. Birke(カバ)、4. Eiche(カシワ)、の順である。これは日本ほど樹種が多くないことが影響していると思われる。カバは南ドイツやNancyでは珍らしいがゆえに、また白い樹皮としだれ枝のゆえに人気があり、とくに女性とヤングに人気がある。ブナ・カシワ・モミなどの森林樹木が男性に好まれるところは、日本と似ている。

f) 人手の加わった自然と加わらない自然

「あなたは、「農地や牧場や山林が入り混じって

表4 好まれる樹種

	付属中	中山中	計
松	260	152	412
桜	186	128	314
杉	177	112	289
いちょう	131	88	219
もみじ(かえで)	140	71	211
けやき	88	44	132
梅	80	39	119
ぶな	48	20	68
ななかまど	42	3	45

いる、人手の加わった自然”と、“まったく人手の加わらない山林や荒地の、ありのままの自然”と、どちらが好ましいと思いますか。」両中学ともに6割強の人が「ありのままの自然」が好ましいとしている。これに対して、両中学に割合に位置的に近い鶴岡市は違った意識を示し、むしろ「人手の加わった自然」を好む人の方が6：4で多く、旭川も鶴岡市に近い。東京・宮崎は両中学と同様に「ありのままの自然の方が好き」の方が過半数を占めている。山形盆地の2中学が抜き出て「ありのままの自然」を好む理由は、5年という調査時点差からくる世論の変化か、山形盆地特有の蔵王山などへの観光開発の進み過ぎに対する反動がよく分からない。

「人手の加わった自然」に親しみ、その中で生れ育っている西ドイツでは、都市間差がないほど75%以上、 $\frac{3}{4}$ 以上の人々が支持している。これに対して、Nancyは71%の人が「ありのままの自然」を好むのは、ラテン民族の特質か。年齢との関係では、若年層ほど「ありのままの自然」を好み、年が増すとともに「人手の加わった自然」を好むようになる。

#### g) 森林美化に対する態度

「森林を美しく維持するためには、人手を加えなければならない。」という意見と、「森林を美しく維持するためには、人手を加えるべきではない」という意見のどちらに賛成しますか。」付属中・中

山中ともに6：4で「人手を加えるべきである」に賛成している。しかも両中学校の意識率の近似した値に驚かされる。ヨーロッパ諸都市の意識はより「人手を加えるべきである」が強く、8～9割の支持率である。日本の中では東京のみが「人手を加えるべきではない」が「加えるべきである」よりも多く、森林との接触の度合の弱い都会人の観念と思える。都会人や素人は「自然は保護すべきである」、しかし「人手を加えるべきではない」の意識で、人手を加えなくとも自然は美しいものであると考えているふしがある。

#### h) 県民の森について

「山形盆地西方の丘陵に県民の森があります。今まで\_\_回行ったことがある、知っているが行ったことがない、知らなかった」県民の森を知らない人は付属中で4人(1.2%)、中山中で4人(2.0%)と例外的存在である。知っているが行ったことがない人は、付属中で16.5%、中山中で31.0%で、山形市民の方が県民の森へはより積極的に出かけているようである。付属中では82.3%の人が、中山中では67.0%の人が県民の森を訪れている。行った回数では付属中では5回が18.9%もあり、中山中でも5回が10.3%もいるのには驚かされる。

1回以上も行っている人が付属中では6%もいるのは、山形市の日帰り型近隣行楽地となっていることを物語っている。

「県民の森に行った人におたずねします。」両

表5 人手の加わった自然と加わらない自然

	総数	人手の加わった自然が好き	ありのままの自然が好き	不明
付 属 中	334	35.0%	65.0	
中 山 中	205	37.6	62.4	
旭 川		53.2	43.7	3.1
鶴 岡		57.5	40.3	2.2
東 京		41.1	50.9	8.0
宮 崎		47.0	51.6	1.4
Freiburg		82.3	15.6	2.1
Hannover		77.5	21.7	0.8
Nancy		27.9	71.4	0.7

表6 森林を美しく維持するための態度

	総数	人手を加えるべきである	人手を加えるべきではない	不明
付 属 中	343	61.8%	38.2	
中 山 中	206	61.7	38.3	
旭 川		62.4	34.0	3.6
鶴 岡		76.5	22.3	1.2
東 京		44.5	49.7	5.8
宮 崎		61.4	33.6	5.0
Freiburg		87.1	10.2	2.7
Hannover		78.3	20.0	1.7
Nancy		82.5	16.8	0.7

表7 県民の森

	総数	今 まで 行 っ た 回 数								知っている が行った ことが ない	知らな かった	行 っ て み た 感 想				
		1回	2回	3回	4回	5回	6~10	11回 以上	非常に素 晴しい			まあよい ところだ	別にどう という ところ でない	思ったよ りつま らない	非常につ まらない	
付 属 中	334	15.6	17.5	17.5	5.1	18.9	16.0	5.8	16.5	1.2	18.9	68.4	5.5	6.2	1.1	
中 山 中	203	22.1	30.1	22.1	2.9	10.3	10.2	2.2	31.0	2.0	13.0	71.7	8.7	6.5	0	

中とも7割は「まあよいところだ」、「非常に素晴らしかった」を加えると85～87%の人が県民の森を肯定的に評価している。非常に素晴らしかったと答えた人に、具体的にどんなところが素晴らしかったかを聞いた。その回答には、「よく整備されている」、「健康的」、「子供を安心して遊ばせることができる」、「施設が整っている」、「自然をうまく利用し、自然に親めるようになっている」などがあつた。

山形県林政課が山形市西方10～15kmの白鷹火山の大沼など湖沼群を利用して、熱意を込めて造成した県民の森は、中央広場に森林学習展示館を設置し、広場・アスレチックス・サイクリング・ドライブ・散策・テニスなどのできる森林公園である。秋田県田沢湖南岸の“秋田県民の森”は全国の樹木を集め、さながら日本樹木図鑑公園といった感じの教育的公園であるが、それに勝るとも劣らないものである。

i) 蔵王山へ行く目的

「全国的に第一級の観光地の蔵王山についてお

ずねします。(回答はいくつでも結構です)。スキー・温泉・ドライブ・山菜採り・ハイキング＝登山・合宿＝講習・行ったことがない」付属中で蔵王へ行く目的で主なものは「ドライブ(92%)」、「温泉(87%)」、「スキー(84%)」、「ハイキング・登山(75%)」、中山中で主なものは「温泉(75%)」、「ドライブ(71%)」である。両中学の最大公約数をとると「温泉」と「ドライブ」ということになる。中山中が付属中に比べて蔵王に対する目的志向率が低いのは、付属中の方が蔵王に近いとい

表8 蔵王山へ行く目的

	付 属 中	中 山 中
ス キ ー	282	112
温 泉	289	174
ド ラ イ ブ	306	165
山 菜 採 り	74	25
ハイキング・登山	249	116
合 宿 ・ 講 習	143	44
行ったことがない	0	1

位置関係から来ていると思われる。さらに、スキー（両中学校の目的志向率の差36%）・ハイキング＝登山（25%）・合宿＝講習24%）などでの差が両中学校で大きいのは、蔵王山に対する位置関係の外に、両中学父兄の生活行動パターン之差が表われていると見ることも可能である。

### III-2 社会環境に対する住民意識

#### a) 余暇の過ごし方

「あなたは余暇をどのように過しますか。(2つ以上でも結構です)」「家族だんらん」・「休息・くつろぎ」・「趣味・娯楽」などが両中とも主な余暇の過ごし方である。両者の差としては付属中で「読書」・「スポーツ・散歩」が中山中の約2倍であるのに、逆に中山中は「ショッピング」が付属中の約2倍になっている。中山町の35.9%の人が月1～2回山形市へショッピングに出かけている（昭和59年度 中山町広域商業診断報告書 山形県）。筑波研究学園都市内桜村の竹園東・桜の二つの中学校での1977年の調査と比べてみると、山形盆地は「テレビ・ラジオの視聴」「旅行」・「読書」・「スポーツ・散歩」などが極端に少ない。調査年次が7年違う時代の変化もあろうが、むしろ地域差ととらえたい。解答に2つ以上でも結構です。と書いておいたが、付属中は平均2.6選んだのに対して、中山中は2.2選んでおり、付属中の方が余暇の過ごし方が

より多様であるといえる。予め記した選択肢の外に、登山（5）・庭いじり（2）・家事（2）などがあった。

#### b) 生活程度意識

「お宅の生活程度は世間一般からみて、次のいずれにあてはまるとお考えですか。」最大値は両校とも「中の中」であるが、付属中の方が生活程度が高いとの意識が強い。

1977年山辺町の山辺・中・作谷沢の三つの中学校と豊田小学校の合計328名に対して行なった同じアンケートでは、最僻地の作谷沢中（46%）・中中（52%）を除いて6割の人が「中の中」意識であった。作谷沢中と中中の「下」意識はそれぞれ15.9%と12.9%と僻地寒村であることの意識が生活程度の意識にも現われている。

#### c) 住みたいところ

「あなたは事情がゆるせば、次のどこに住みた

表10 生活程度意識

	付 属 中	中 山 中
上	3.6	1.4
中 の 上	23.3	11.1
中 の 中	52.8	57.0
中 の 下	17.3	25.1
下	4.5	5.3

表9 余暇の過ごし方

	付 属 中	中 山 中	1979年筑波研究学園都市	
			新 住 民	旧 住 民
テレビ・ラジオの視聴	13.5%	14.4	37.3	46.2
旅 行	6.0	4.6	12.4	15.3
休息・くつろぎ	16.1	18.3	34.8	27.1
読 書	10.3	4.8	26.7	5.4
社交・つきあい	2.9	3.7	6.2	8.1
家庭だんらん	15.0	19.9	19.9	25.1
勝負ごと・かけごと	0.5	0.9	1.9	1.4
趣味・娯楽	14.9	14.2	32.3	22.6
ショッピング	5.6	11.1	8.7	10.4
スポーツ・散歩	13.5	7.6	31.7	12.0
その他	1.7	0.4	9.3	3.7



表11 住みたいところ

	寒河江	山形	仙台	東京	大阪	四国	九州	北海道	湘南伊豆	外国	思わない
付 属 中	0.5%	15.1	23.2	9.2	1.9	1.1	1.4	5.9	22.4	7.3	7.6
中 山 中	1.4	17.5	18.4	5.2	2.8	1.4	2.4	5.2	9.0	2.8	30.7

いと思いますか。』イギリスでメンタルマップを作成したら、北の方の人ほど日本の湘南地方に相当するブライトンなどイギリス海峡に面する温暖な地方に住みたいという志向が指摘されている。両校とも仙台への志向は強く、それに次いで山形である。付中の湘南・伊豆への指向が22%もあるのは、イギリス北部住民のメンタルマップと同類のものと考えられる。両校の大きな差は、付中の湘南・伊豆への志向の強さと、中山中の「思わない」（現住地でよい）の31%という高さである。1977年山辺町の調査でも42%が「思わない」、無記入の17%を合わせて58%が現在地以外に住むことには消極的で、「住めば都」の意識がはっきりあらわれている。ただ僻地の中中は「思わない」はわずか29%で「山形」へ住みたい（32%）人の方が多い。条件の悪いところの人ほど、移住希望が強く意識されている。付属中の9%が東京志向であることと、「思わない」と「外国」が7%ずつで拮抗していることも特色といえる。

その他を具体的に記入してもらった中で、両校合わせて、京都8、静岡4、が上位のものであった。

#### d) 生活環境施設

「あなたの生活環境の整備について、今日最も必要としているとお感じのものを一つだけ次のうちからお選びください。」両校の相違が目立ち、付属中は38%が「幹線道路・新幹線・高速道路の整備」を望み、中山中は「商店街の近代化」・「病院・医院」とより身近な生活環境施設の充実を望んでいる。山形市内に住んだり、広域的あるいは東京などとの超広域的行動をする付属中父兄の生活行動からくる意識の差と読みとれる。その他としては両校合わせて大学が6、下水道が3が上位のも

表12 生活環境整備

	付属中	中山中
高等学校の増設	9.9%	10.1
福祉施設 <small>(保育園・児童保育所・老人ホームなど)</small>	6.7	8.6
農林業の振興	1.3	3.5
図書館・音楽堂・集会所の設置	8.6	3.0
遊園地・都市公園	7.6	6.6
幹線道路・新幹線・高速道路	37.9	11.1
生活道路	7.3	9.6
病院・医院	3.5	20.2
除雪対策	6.1	4.5
商店街の近代化	8.0	20.7
その他	3.2	2.0

のであった。

#### e) 子供および父母に対する態度

子供を育てることに対して、あなたはどのように思いますか。両校とも「親としてあたりまえの義務である」が71%を占め、「むずかしいがやりがいがある」が22%・24%と非常に似た反応を示している。これは10年前の筑波研究学園都市の結果とも似ており、日本人の意識が時間により空間によりそれほど差がないことを物語っている。

「子供が老父母の面倒をみることをあなたはどのように思いますか。」両校ともに「子供として当然の義務」・「よい習慣と思う」と約8割の人が肯定的である。

#### f) 子供の教育

子供の大学進学に対する意向と子供の習い事について質問した。両校の大きな違いは、付属中学で「性別に関係なくどうしても大学へやりたい」が26%であるのは、中山中でわずか3%しかない。逆に中山中は「男の子はできれば大学へやりたい」

表13 子供と父母に対する態度

	子供を育てることへの思い					子供が老父母の面倒をみることに對する気持					
	親としてあたりまえの義務である	むずかしいがやりがいがある	子供は将来頼りになる	相当の犠牲である	その他	よい習慣だと思う	子供として当然の義務	老人施設や年金制度がないから仕方ない	よい習慣とは思わない	わからない	その他
付 属 中	71.1	22.3	1.4	1.4	1.4	35.7	44.9	8.6	3.9	4.5	2.4
中 山 中	71.1	23.7	3.8	1.4	0	32.0	46.2	10.7	6.1	4.6	0.5

表14 子供の教育

	子供の大学進学に対する考え方						子 供 の 習 い 事								
	性別に関係なくどうしても	男の子はどのようにしても	性別に関係なくできれば	男の子はできれば	関心が無い	わからない	無記入	学習塾	ソロバン塾	ピアノ・バイオリン	スポーツ	習字	家庭教師	その他	何もしていない
付 属 中	26.0	7.1	55.6	6.8	1.2	3.3	—	23.8	2.3	22.2	8.3	13.3	8.9	0.1	20.5
中 山 中	3.0	5.5	43.2	22.1	13.1	13.1	—	0.1	15.7	8.5	7.7	21.0	0.1	0.1	44.8
竹園東中	19.8	3.9	59.5	7.8	3.4	3.0	2.6	30.2	7.8	37.5	15.5	20.3	10.8	8.6	25.9
桜 中	6.1	6.6	47.6	21.4	7.0	7.4	3.9	18.3	21.4	11.8	2.2	10.5	11.8	2.2	42.8
筑波西中	8.3	3.5	43.9	18.0	7.9	12.7	5.7	18.4	25.9	11.0	3.1	20.6	4.8	2.6	42.5

〔筑波研究学園都市内3中学は1980年度の調査結果〕

が22%（付属中は7%）も占め、(子供の大学教育には関心がない」と「わからない」が13%ずつ占めていることである。筑波研究学園都市の5中学校を含めて考えても、付属中と中山中の対照がそのまま5中学の中の極値として、際立っている。

子供の習い事では付属中の学習塾・ピアノ＝バイオリン・家庭教師に対して、中山中のソロバン塾・習字・何もしていないが対照をなしている。筑波研究学園都市と比べると、竹園東中のピアノ＝バイオリン38%と学習塾30%が習いごとの中ではトップを占めており、それに対して筑波西中のソロバン塾26%と習字21%は農村部の習い事の代表といえる。農村部では習い事の施設も機会も少ないので何もしていないものが40%台を占めている。

#### g) 生活様式

生活様式は耐久消費財の保有状況に反映される。付属中は応接セット・ルームクーラー・ピアノ・ジュタンカーペット・パネルヒーターなどの洋風居住スタイルに必要なものが多いのみならず、百科辞典・スライドプロジェクター・ステレオ・

本棚・ワープロなど文化・教養財の所有率も中山中に比べて高い。逆に電子オルガンは中山中で高く、筑波での調査でも、農村部での普及率の方が高かった。竹園東中学校と比べてみると、調査年に6年の差はあるが、付属中は非常に類似した耐久財所有率を示している。

購入予定耐久財をみると、両校とも乗用車（22.26%）・ルームクーラー（16.21%）などが高い。両校の大きな差は付属中で背広＝スーツ・ワープロなどへの欲求が中山中の倍以上であるのに対し、中山中は扇風機・電子レンジ・カメラなどへの欲求が付属中の倍以上である。

#### IV おわり

農村部の住民（中山中学校の父兄）の方が都市部の住民（付属中学校の父兄）よりも緑の総量にはより満足している。最も好ましいと感ずる風景と行ってみたいと思う観光地は生活環境の経験の中から選ばれている。中央ヨーロッパ諸国で一般的な「森林の中の散歩」は、日本では人気がなく、森林というものに対するイメージがかなり大きく

表15 耐久財所有率

	所 有 率			購 入 予 定 率		
	付 属 中	中 山 中	竹 園 東 中	付 属 中	中 山 中	竹 園 東 中
ベッド	71.9	54.1	52.0	5.7	8.1	8.1
応接セット	61.7	25.8	61.9	4.5	7.2	10.8
ルームクーラー	57.5	27.8	36.6	15.6	20.6	15.3
ピアノ	59.9	17.7	57.4	2.4	1.4	3.7
電子オルガン	21.3	36.4	20.3	0	1.9	1.0
温風暖房器	88.3	73.7	36.6	8.7	7.2	8.3
ジュータン・カーペット	82.9	65.1	88.1	5.4	4.8	4.3
電気洗濯機	98.8	95.7	98.5	6.6	7.7	9.5
電気こたつ	95.5	94.3	93.6	2.7	4.3	4.1
扇風機	96.1	94.3	87.6	0.5	1.4	4.1
百科辞典	86.5	62.7	67.3	3.6	3.8	7.7
電気冷蔵庫	99.1	93.8	98.0	10.8	12.0	10.4
背広・スーツ	97.6	92.3	95.0	11.1	4.8	6.2
テープレコーダー	91.9	83.7	90.6	1.5	1.9	2.1
電子レンジ	65.3	44.5	20.3	7.2	16.3	14.3
スライドプロジェクター	10.8	0.5	30.7	1.5	0	1.4
石油ストーブ	89.5	95.2	78.7	1.2	2.8	3.1
乗用車	90.1	86.1	75.2	21.9	25.8	19.5
電気掃除器	97.9	94.7	98.5	5.7	5.7	7.5
ステレオ	82.6	61.2	76.7	9.3	9.6	17.6
本棚	95.2	78.9	95.0	7.2	8.1	5.8
カメラ	97.6	90.0	96.5	3.3	8.1	9.7
パネルヒーター	24.3	9.6	18.8	1.5	0.5	1.7
パソコン	28.7	18.2	—	15.3	9.6	—
ワープロ	10.1	3.3	—	16.8	6.7	—
この中に欲しいものはない	0	0	2.5	7.2	15.3	15.9

〔竹園東中の所有率は1980、購入予定率は1979〕

違っていることに原因がある。好ましい樹木も、松・桜・杉などそれぞれの生活環境の中から選ばれている。

山形盆地ではナンシーと同様に「ありのままの自然が好き」であるが、森林を美しく維持するためには「人手を加えるべきである」と考えている点は、中央ヨーロッパと同じく観念的に自然保護

を唱える傾向の強い都会人（東京）とは対照的である。

社会環境や教育に対する意識も農村部と都市部ではかなり異なっており、付属中の意識は筑波研究学園都市の新住民の意識に近く、中山中のそれは旧住民に近い意識である。

本研究には文部省科学研究費補助金・一般研究C（代表佐々木博，課題番号6058186，里山林野のレクリエーション利用形態の研究）を使用した。

〔注および参考文献〕

- 1) 茨城県土浦市(1980)：『土浦市・緑のマスタープラン策定調査報告書』  
中島直子(1984)：既成市街地樹林地変容に対する住民意識に関する研究，日本地理学会予稿集25, 224-225.
- 2) 四手井綱英(1981)：『森林環境に対する住民意識の国際比較に関する研究』トヨタ財団助成研究報告書(I-007).
- 3) 佐々木博ほか(1977・78・79)：筑波研究学園都市における居住環境と住民意識の研究，筑波の環境研究2・3・4.  
佐々木博(1982)：筑波研究学園都市の社会地理学的分析，人文地理学研究VI.
- 4) 上笹 恒ら(1980)：筑波研究学園都市における居住環境と住民意識の研究(4)，筑波の環境研究5.
- 5) 市川健夫・斎藤 功(1985)：『再考 日本の森林文化』NHKブックス.
- 6) 前掲1).